

三小だより 8月号



夏休みを迎えるにあたって

校長 寺下 憲志

ふとカレンダーを見ると、7月の終わり、本来であれば夏休みがスタートして10日あまり、毎年恒例の富田林の花火大会もあり、金剛駅周辺にもぎわう時期ですが、今年は「新型コロナウイルス感染症」の拡大を受けて花火大会は中止、学校も8月7日までが1学期です。大人も子どもも初めて続きの1学期、お子さまのご家庭での様子は、いかがだったでしょうか。



これまでより、少し遅い登校時間。保護者の皆様には本当にご迷惑をおかけしています。子どもたちが教室に入る前に廊下で一人ずつ行う健康チェック。これを全クラスで行うため、教職員数の少ない本校では、この時間にするしかありません。検温など、朝の時間の過ごし方にも変化があったと思います。私も毎日、体温を測るのが習慣になりました。(ついでに血圧も)

子どもたちは登校後、まず手洗い、そして健康チェックを受けてから教室へ。体温が測れていない場合は学校で検温します。

授業にも変化が見られます。ソーシャル・ディスタンスや密にならないことを意識し、これまでのように班の形にして意見交換をすることもありません。マスクを着用し、教員も児童の距離感を完全とは言えないものの、常に意識をしています。

教室のごみ箱も1つ増えました。鼻をかんだりしたティッシュ用で、蓋つきのゴミ箱です。

また、この季節、熱中症予防と換気を両立させるため、教室は窓を開けてエアコンを稼働、体育館も横の扉や上の窓を開けて行います。運動場や畑など、外の活動は比較的安心できますが、それでも距離感や給水の頻度をこれまで以上に意識するようにしています。

学校行事も1学期は授業参観や校外学習もできませんでした。HPで紹介しているものの、子どもたちが頑張っている場面を直接見ていただくことができませんでした。懇談でお示しているように、2学期以降、できる範囲で学校行事を行いたいと考えております。(最近の感染状況を見ても「確実に実施します」とは言えませんが、進めていきたいと考えています。)

時には、「親も忙しいし、子どもは重症になれへんねんから、早くいつも通りの学校に戻して！」といったご意見を頂戴することもありました。しかしながら、ワクチンや治療薬が開発されたわけではありません。若い人は重篤化する率が低いといいますが、無症状あるいは軽症の子どもから、高齢あるいは基礎疾患をお持ちのご家族へといったことも十分に考えられます。

長期化するにつれ、教員は「こんな授業(活動)がしたいのに・・・」、保護者は「もっと子どもの様子が見たいのに・・・」、子どもたちも「もっと自由にいっぱい遊びたいのに・・・」など、ストレスがたまってきていると思います。色んな思いがあるのは理解できますし、共感しますが、学校としましては、「感染リスクをどう抑えるか」を考えながら「新しい学校」の姿を模索していきたいと思います。

いつもと違う日常を過ごした2か月間、南第三小学校の子どもたちは本当によく頑張っていたと思います。特に5・6年生の学習に向かう姿は他学年の手本となるものでした。それでも、知らず知らずの間に子どもたちは疲れています。つかの間の夏休み期間にはなりますが、子どもたちと一緒にゆったりと過ごす時間を取って、話をたくさん聞いていただければと思います。よろしくお願いします。